



平成28年 1月13日 NO・91

〒311-1114 水戸市塩崎町1016
 TEL029-269 -2116 FAX029-269 -3160
 Mail tunezumi-j@magokoro.ed.jp

【ホームページで、カラー版が見られます】



一・二・三年生学力診断のためのテスト
 三年生学年末テスト実施



本日、小学校三年生から中学校二年生までを対象とした「学力診断のためのテスト」が、県下一斉に実施されました。

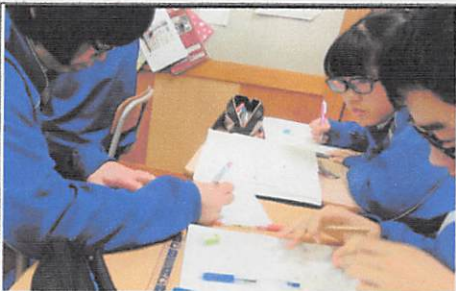
このテストは、本年度生徒たちが学んできた内容が、どの程度身に付いているかを診断するためのテストです。

一時間目の国語より、英語、数学、社会、そして五時間に理科という順番で実施されました。

また三年生たちは、中学校生活最後の期末力テストが実施されました。テスト中、どのクラスも音が消えていました。ただ、鉛筆で文字を書くときの「コツコツ」という音のみが聞こえていました。

「教師たちは」といって、教室内の全生徒の動きが見える位置に立ち、静かに生徒たちを見つめています。

「教えて」と言える雰囲気がある教室・学校



「まず自力解決の時間をとるので、考えなさい。」と川又先生が指示した。

しばらくの間、自分の力で考えていたが、ある程度時間が経つと、自然発生的に少人数での学び合いが生まれていった。教室内の至る所で、少人数のグループができていた。この時の自然発生的な基本ルールがおもしろいので紹介する。

「教えようか」と言わない。「教えて」と助けを求めた生徒に周りが手を介しているのだ。



3年生の数学の時間、川又先生の指導で生徒たちは「三平方の定理(ピタゴラスの定理)」を学んでいた。

まず最初は、左上の写真のように川又先生から基本的な説明があった。それを聴いているときの生徒たちの表情が実によい。左下の写真のように、どの生徒たちも話者(川又先生)の方に、視線を向けている。話者(人)を大切にすることが伝わってくる。

次に、生徒たち自身で定理を a, b, c などの数値でどうすれば表現できるかを考える時間となった。

これは、素晴らしいルールだ。「教えようか」と優しさの押し売りをするのではなく、困っている人が、「助けて」と言う。優しさに満ちた雰囲気、教室内にできあがっていなければ成立しないシステムだ。

「助けて」と言っていないんだ。「助けて」というと、友達に助けてくれるんだ。3年生たちの教室には、そういう暗黙の了解がある。さすがに常中の3年生たちだ。尊敬に値する。このシステムは、ぜひ下の学年にも引き継いでいってほしい。常中生は、「助けて」と自分で言える。「困っている友は助ける」そういう学校でありたい。

